

## ◆【御船印めぐりの旅】

# ジェットfoil「セブンアイランド結」 東京港・竹芝棧橋から東京諸島へ

— 東海汽船株式会社 —

東海汽船株式会社は東京港・竹芝棧橋を基点として東京諸島のほか、伊豆半島の熱海港の各地を結ぶ定期航路を運航している。平成14年からは高速ジェット船を定期航路へ導入し、東京から大島を1時間45分で結び、利島・新島・式根島・神津島の各島々も高速ジェット船で結ぶことで、東京～東京諸島への観光を身近なものとした。

高速ジェット船の運航開始以降、手軽に東京諸島へ行けることから利用客も増え、旅客や生活物資の海上輸送業務を通して、島に暮らす人々のライフラインを担っている

### 東京と東京諸島を結ぶ 「海の架け橋」

ジェットfoilは離島航路になくてはならない船と言われ、タービンエンジンでウォータージェット推進機（ポンプ）を回して海水を噴射し、前後2組の水中翼に発生する揚力で海面から浮上して航走する。

「セブンアイランド結」の「結」という字には島と本土を繋ぐというコンセプトが込められている。デザインカラーは、東京諸島を流れる黒潮をイメージした「T O K Y Oアイランドブルー」と名付けた藍色を使用し、大海原を進む力強さと、どこか懐かしさを感じるデザインに、大きな結び目マークを用いた。

### 神津島を歩く

神津島には、西側に位置する前浜港（神津島港）と東側に位置する多幸港（多幸湾）があり、気象条件で入港する港が変わる。山の斜面が緑と茶色の部分に分かれているのが目に入る。風が強いために、大きな植物が根付かない場所があるそうだ。きれいに分かれた色から、自然の厳しさがうかがえる。

島名の由来は、伊豆の島々を作るために、神々を集めて話し合う場がこの島であったことから、昔は「神集島」と書いた。島の周囲には眺めの良い展望所も多く、空気が澄んでいれば東京方面や富士山も見えるところ。この日は利島をかすかに見ることができ、下を見ると、クリアブルーの海が広がり、爽快感抜群だ。

### 多幸湧水

「東京の名湧水57選」の一つとして数えられ、飲み口のやわらかい水が湧いている。これは天上山に降った雨が、多幸海岸付近から湧き出しているもので、季節を問わず、清冽な湧水が流れている。

### 神津島港～前浜海岸

美しい白砂が広がる前浜海岸は神津島の西側に位置する神津島港（前浜港）からほど近く、道路沿いには神津島の名の由来を物語る「水配り像モニュメント」がたたずむ、人気のある海水浴場。

### 天上山

神津島のシンボリック的存在である天上山の山頂部は比較的平坦で、ここに「表砂漠」「裏砂漠」と呼ばれる砂地があり、山頂は標高572メートル。新東京百景展望地をはじめとする、天空の丘、裏砂漠展望地など、山頂部の展望地からは空と海が織りなす大展望を満喫することができる。

山頂の大きな窪地の不入ガ沢は、神代の時代、この地で伊豆諸島の神々が集まり、水配りの会議が行われた舞台として言い伝えられており、山頂に降る雨が砂に浸み込み、やがて多幸水を代表する神津島の名水として、島の各所から豊富に湧き出ている。

**-要目-**

▽総トン数=176トン      ▽全    長=27・36m  
▽座席数=241席      ▽最大速力=43ノット（約時速80km）

◇◇◇◇◇◇◇◇ 一般社団法人日本旅客船協会の公認事業「御船印めぐりプロジェクト」 ◇◇◇◇◇◇◇◇  
参加会社の船や航路ごとに発行するさまざまな御船印を集めることができる。

御船印とは、神社仏閣めぐりで集められる御朱印の船バージョンで、日本各地の船をめぐる船旅の楽しみをさらに盛り上げるため、プロジェクトに参加する船会社のオリジナルの御船印帳・御船印紙を購入し、旅客船、観光船などに乗船した際、船旅の思い出を彩る記念の押印（スタンプ）をいただくもの

「海員だより」